

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		道路改築事業		路河川名等	(主)中津川田立線					
事業毎の通番		1	市町村名	南木曾町	箇所名(ふりがな)	田立(ただち)				
事業概要	事業目的	(主)中津川田立線は、岐阜県中津川市と南木曾町田立の国道19号を結ぶ主要な幹線道路であり、県境の南木曾町田立地区から中津川市へ連絡する生活道路でもある。 また、木曾川右岸道路に関連し、国道19号の代替路線及びリニア中央新幹線岐阜県駅(仮称)へのアクセス道路として通行の確保に必要な路線である。 しかし、南木曾町田立において、幅員狭小で、見通しが悪く、乗用車同士のすれ違いが困難な状況にある。 このため、本事業は、道路改築を行い、安全で円滑な通行を確保することを目的としている。								
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(暮らしを支える道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法					
	関連する事業、計画等	長野県総合5か年計画、木曾川右岸道路、木曾地域振興計画								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:1,300台/日								
	着手年度	平成28年度	事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	完成年度(見込み)	平成36年度	費用対効果	2.6	国庫	600,000	その他	360,000	県債	40,000
	全体事業内容(主な工種)	道路築造工L=860m W=5.5(9.25)m うち橋梁L=113m(110m+13m)			1,000,000	600,000		360,000	40,000	
	年度事業内容(主な工種)	地形・路線測量一式、地質調査一式、道路詳細設計一式、 橋梁詳細設計一式(2橋)			100,000	50,000		45,000	5,000	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 災害に強い道路(国道19号の災害、事故発生時に代替道路として機能する)							
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進							
評価の視点	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ○代替道路の有無:国道19号の代替路になる ○交通結節点アクセス:JR田立駅、JR坂下駅への1次アクセス道路 ○観光地アクセス:岐阜県坂下病院、県立木曾病院へのアクセス道路 ○地域の活性化:木曾地域と岐阜県を結び地域の活性化に寄与する、通行制限(高さ)の解消 							評価	A
	重要性	<ul style="list-style-type: none"> ○関連計画、重点施策との整合:長野県総合5か年計画[2013]、木曾川右岸道路関連、木曾地域振興計画 ○緊急輸送道路の路線指定:避難経路、国道19号代替路 ○地域指定:南海トラス地震対策推進地域 							評価	A
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ○費用便益比(B/C):2.6 ○事業期間:9年間 ○工法等の比較検討:ルート比較検討実施 ○他事業との連携:木曾川右岸道路、リニア関連 							評価	A
	緊急性	<ul style="list-style-type: none"> ○近年の交通事故件数:国道19号代替路 1件 賤母道の駅前(H24) ○渋滞及び騒音・振動の緩和:国道19号通行規制発生時に発生する渋滞の緩和 ○歩道整備:歩道未整備区間に歩道整備 ○現況の幅員、半径、勾配:現況最小幅員2.5(3.5)m 							評価	A
	計画熟度	<ul style="list-style-type: none"> ○事業情報の共有:(主)中津川田立線改良促進期成同盟会、岐阜県恵那土木事務所、中津川市、南木曾町へ事業説明(H25.4.26) ○地域の取り組み:期成同盟会より長野県建設部長要望(H25.11.15)、岐阜県県土整備部長要望(H26.2.6) ○地域の合意形成:(主)中津川田立線改良促進期成同盟会理事会及び関係地権者へ事業説明(H27.7.7) ○住民との協働:田立地域振興協議会 道路アダプトシステム協定(H20.2.6締結) 							評価	A
	部意見	事業の必要性、重要性、効率性、緊急性が高いため、平成28年度から新規事業化したい。	行政改革課意見	国道19号通行止めの際の代替路として、またリニア駅へのアクセス道路であるため、重要性、緊急性が高く、必要性も認められる。	評価結果	○	総合評価	A		

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

位置



平面図



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的背景・社会的背景	平成12年度から長野・岐阜両県の沿線住民が中心となり、PI方式により住民の要望、意見を取り入れルート検討が行われてきたが、決定したルートは事業規模が大きく早期事業化が困難であったため、当面の安全性確保と利便性向上を図る対策をしてH18~H21に待避所(長野県側3箇所、岐阜県側3箇所)を設置している。しかしながら、H24に国道19号事故通行止により迂回路となった際には幅員狭小により大渋滞が発生するなど車両の通行に支障をきたしており、地元の強い要望を受け、H25県単道路事業改築事業に着手している。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	(主)中津川田立線期成改良促進同盟会より長野県建設部長、岐阜県県土整備部長に早期事業化に向けての要望書が提出されている。		
③事業説明等の経緯	H25.9.2、H26.3.11、H26.7.15、H27.7.7に(主)中津川田立線改良促進期成同盟会及び関係者へ事業説明会を実施。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	岐阜県側の道路改築について、岐阜県と調整を進めている。 木曾川右岸道路南部計画区間との継続区間である。		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	地域住民の生活環境への影響を配慮したバイパス計画としている。 切土斜面、盛土斜面は植生を行い周辺環境に配慮した計画としている。		
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、付近の商業施設等の活性化も期待される。		
⑦その他	コストの縮減が期待できるルート案を採用している。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 35' 06" 東経:E 137° 32' 50"